

卷頭言

令和6年4月から奈良県立医科大学大学院看護学研究科によいよ博士後期課程が開設されます。ちょうどそのタイミングに合わせるように節目の奈良県立医科大学看護研究ジャーナル第20巻が発刊されることになります。

さて、医学系大学には教育・臨床・研究の3本柱が必要とされています。教育は大学教員が学生に行うものと思われがちですが、それだけではありません。臨床現場で先輩が後輩に教えることも教育です。したがって、医療現場では自然と臨床と教育を実践しているのです。臨床現場で教える内容は経験に基づいたものであることも多いでしょう。しかし、教える内容にはそれを裏打ちする根拠がなければなりません。その根拠とはなにでしょうか？それは教科書やガイドラインであったり、エビデンスと呼ばれる医学的知見であったりしますが、これらは研究の下支えがあってこそ存在する書物です。臨床現場にあるちょっとした疑問を拾い上げて、研究を行ってみませんか。研究を行うことで、教科書やガイドラインを利用する側から作製する側に回ることができるようになります。その際に、看護研究ジャーナルが重要な存在になると思います。これで医学系大学に必要とされる教育・臨床・研究の3本柱が揃いましたね。さあ、これから皆さんと一緒に看護研究ジャーナルを作り上げ、発展させていきましょう。

令和6年3月
編集委員 臨床病態医学
山内基雄